

第3回

御坊市介護保険事業計画策定委員会

資料 3. 御坊市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査分析結果

令和5年12月20日(水)
御坊市介護福祉課

3. 御坊市介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査分析結果

目的 第9期介護保険事業計画に資する資料を得る

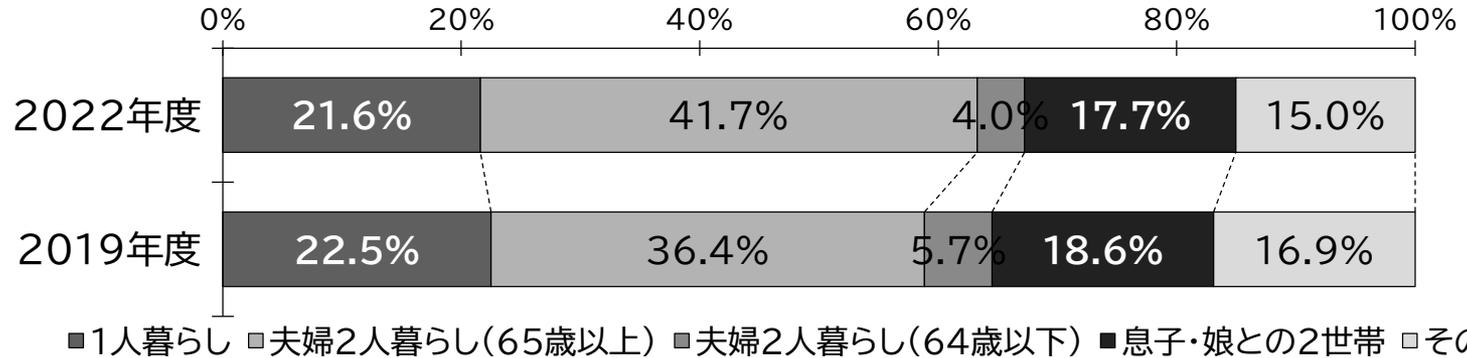
対象 市内在住の65歳以上で要介護認定を受けていない方

報告内容

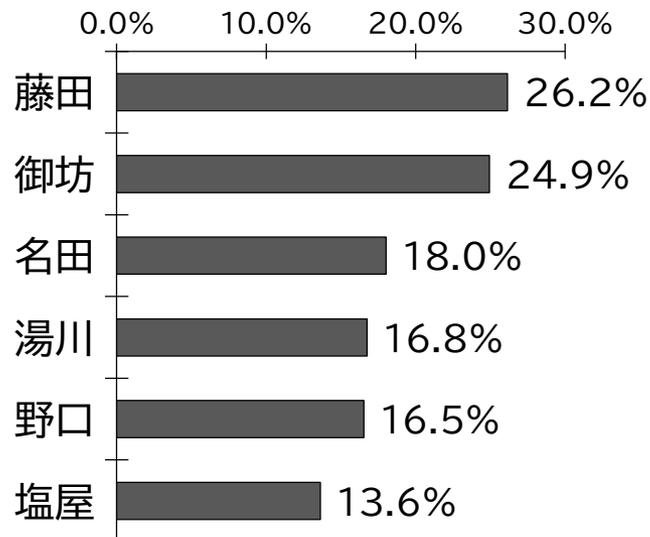
- 家族や生活の状況
 - ・ 家族構成
 - ・ 現在の暮らしの経済的な状況
- からだを動かすこと(運動機能)
 - ・ 階段昇降等
 - ・ 転倒経験
 - ・ 運動機能リスク者割合
 - ・ 1週間の外出状況
- 食べることについて
 - ・ 低栄養の傾向
 - ・ かむ力(咀嚼力)
- 物忘れについて
- 生活機能について
 - ・ IADL(手段的日常生活動作)
- 地域活動について
 - ・ 参加状況
 - ・ 地域づくりへの参加意欲
- たすけあいについて
 - ・ 情緒的サポート
 - ・ 手段的サポート
 - ・ 相談する相手、友人や知人とのかわり
- 健康について
 - ・ 主観的健康観
 - ・ 主観的幸福感
 - ・ うつ傾向
- 認知症に関する相談窓口について
- 暮らしに関する情報について

家族や生活の状況

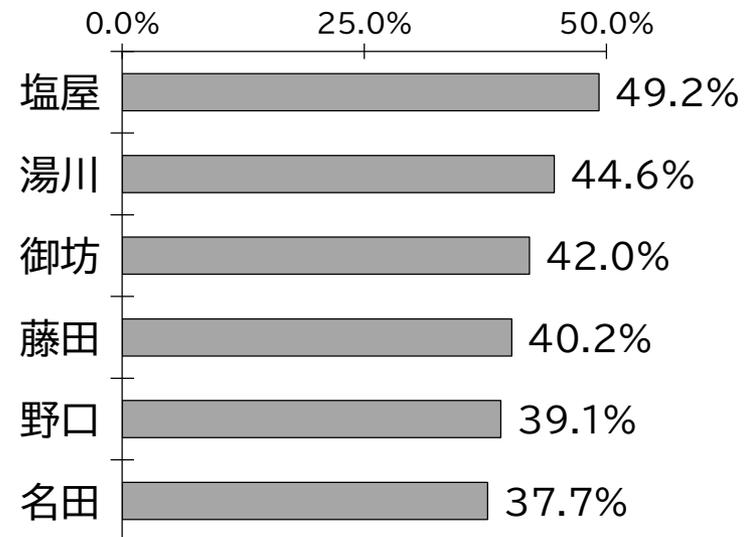
[家族構成]



[1人暮らし]

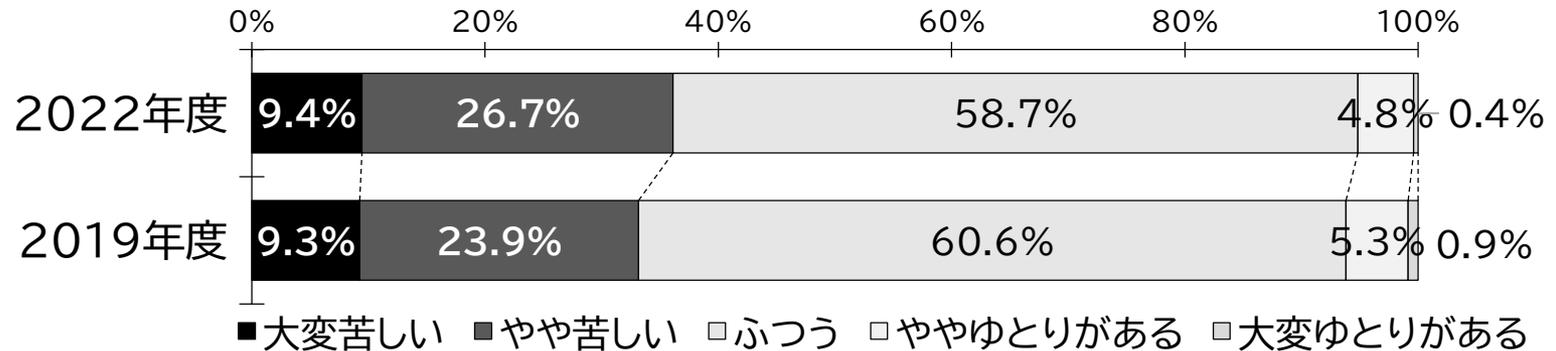


[夫婦2人暮らし(65歳以上)]

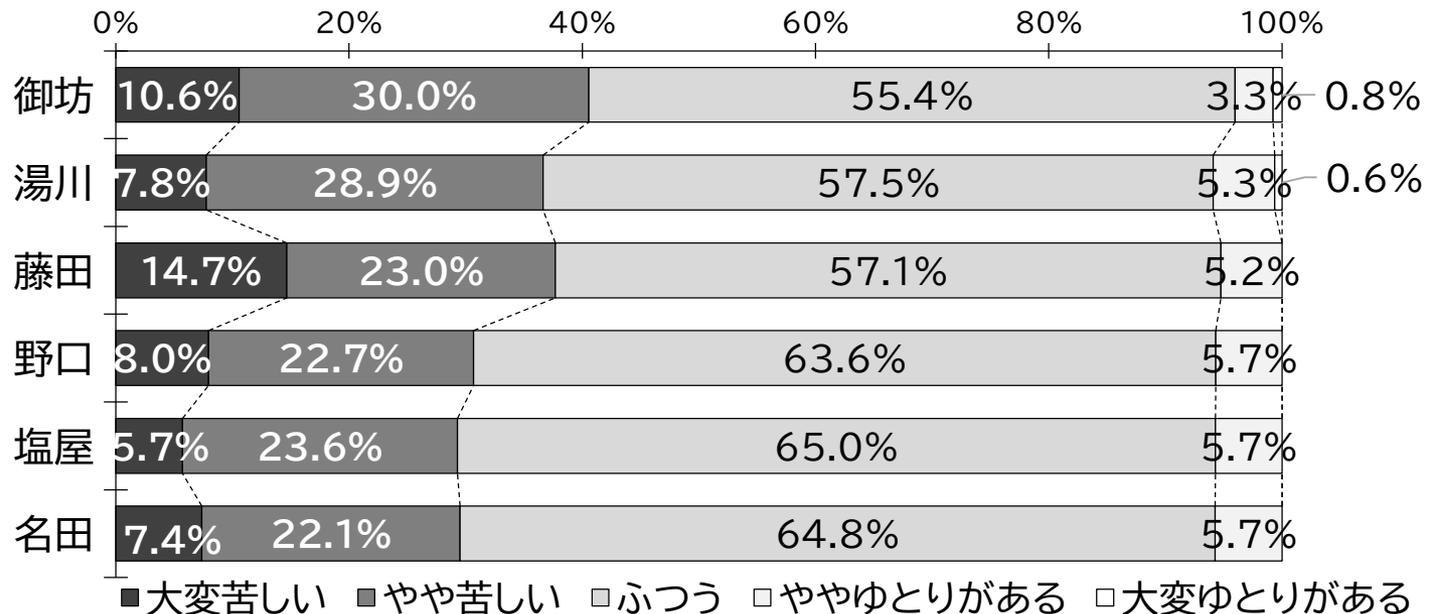


家族や生活の状況

[現在の暮らしの経済的な状況]

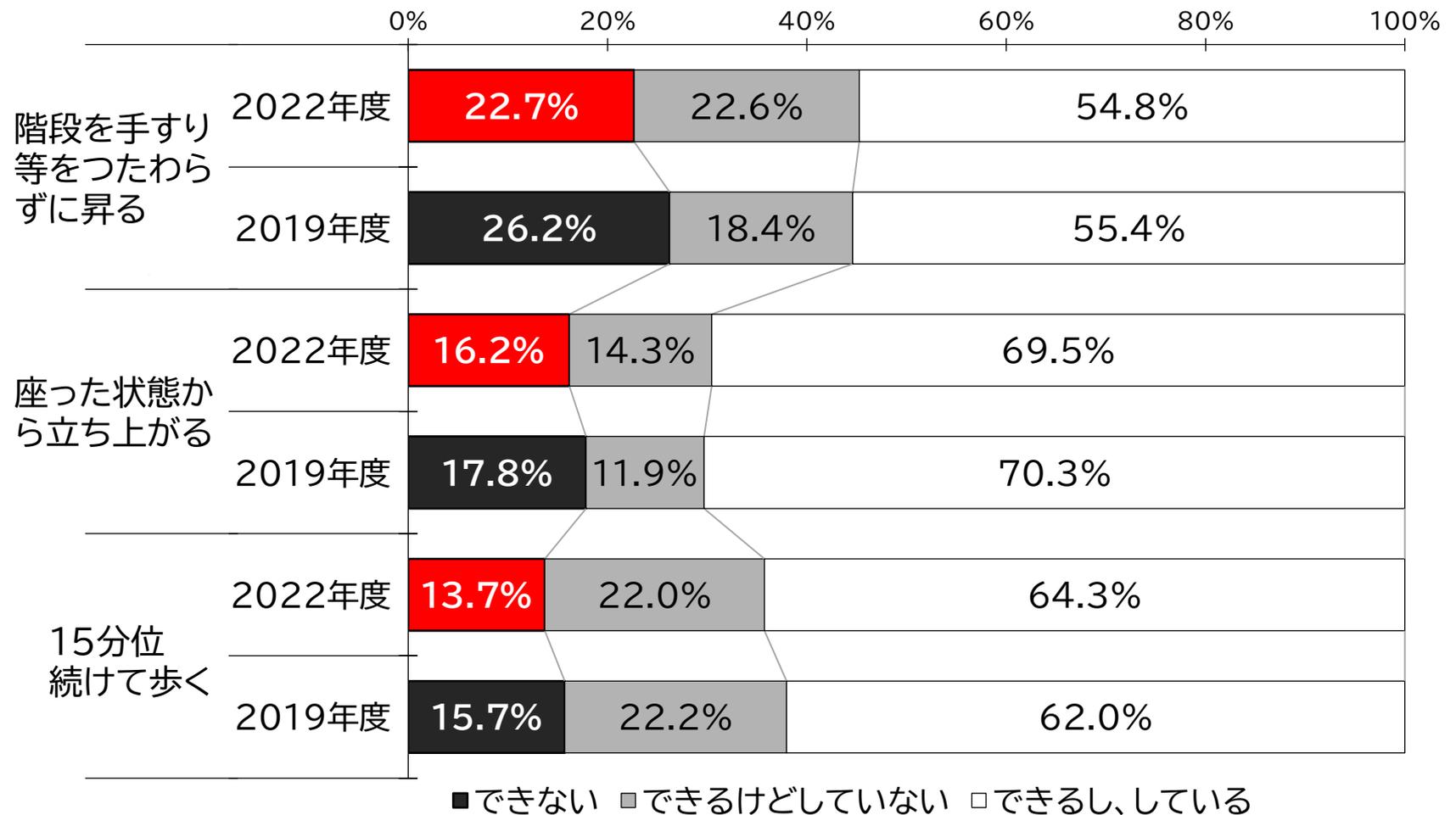


[圏域別]



からだを動かすこと（運動機能）

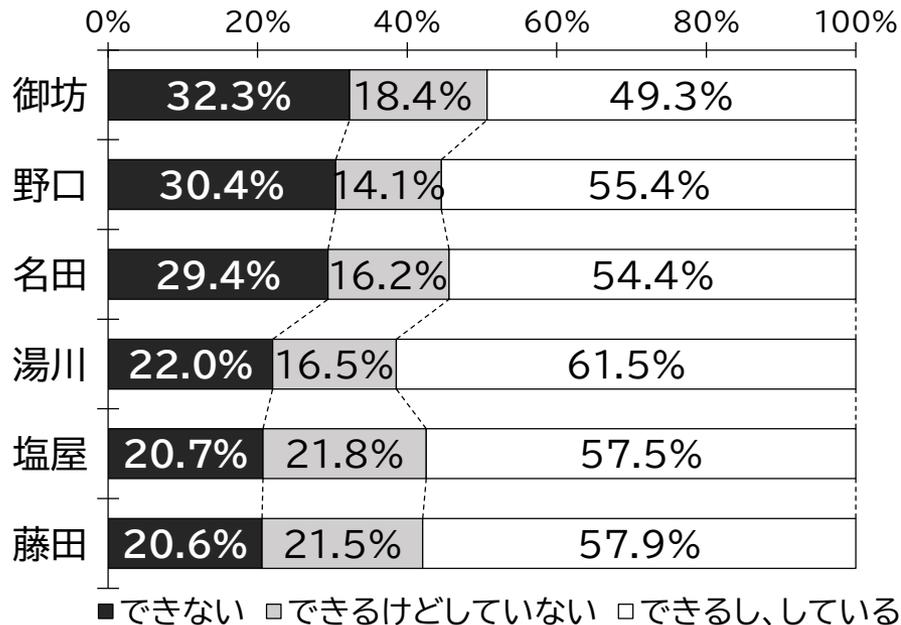
□ 「できない」は2019年度から、2022年度で全体的に改善



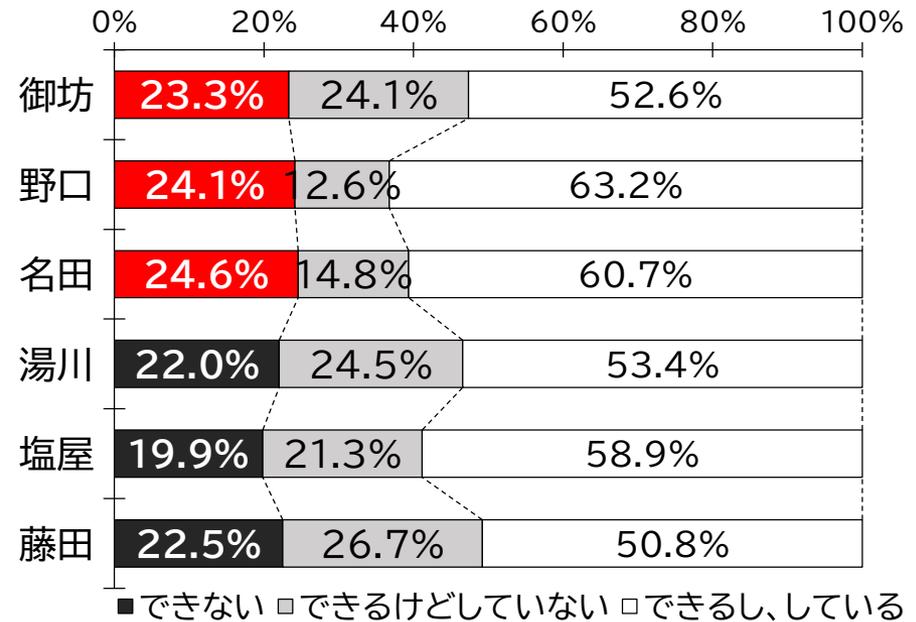
からだを動かすこと（運動機能）： 階段

- 「できない」は御坊は約10%、野口、名田は約5~6%改善
- 「できるけどしていない」は増加: 湯川8%、御坊6%増加

[2019年度]

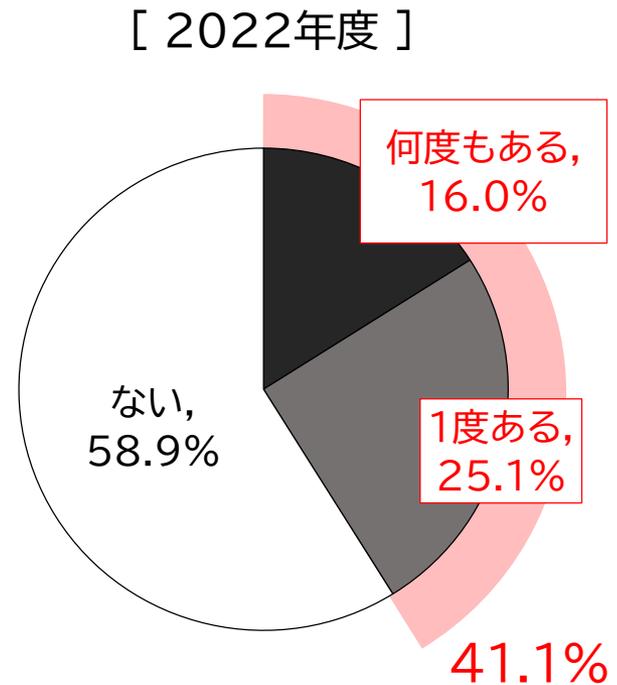
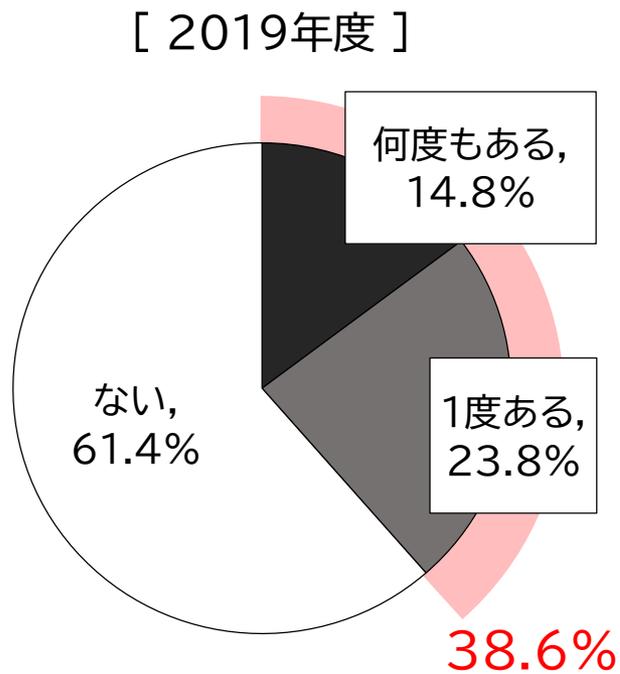


[2022年度]



過去1年の転倒経験

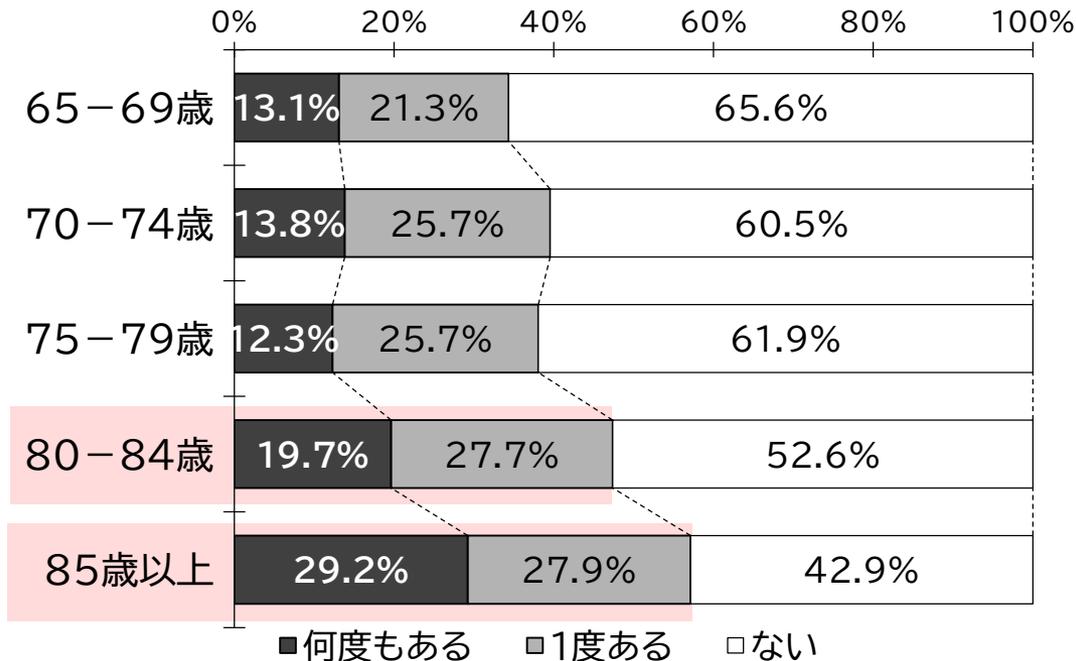
□ 転倒経験は2019年度より2022年度はやや増加



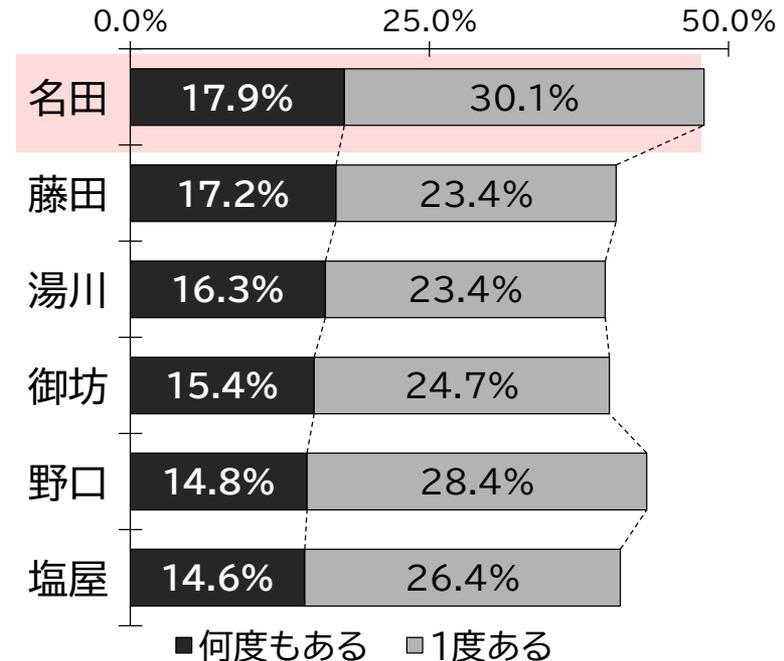
過去1年の転倒経験（年齢階級別・圏域別）

- 80代になると転倒経験が増加する傾向
- 名田が「何度もある」「1度ある」がともに多い

[年齢階級別]

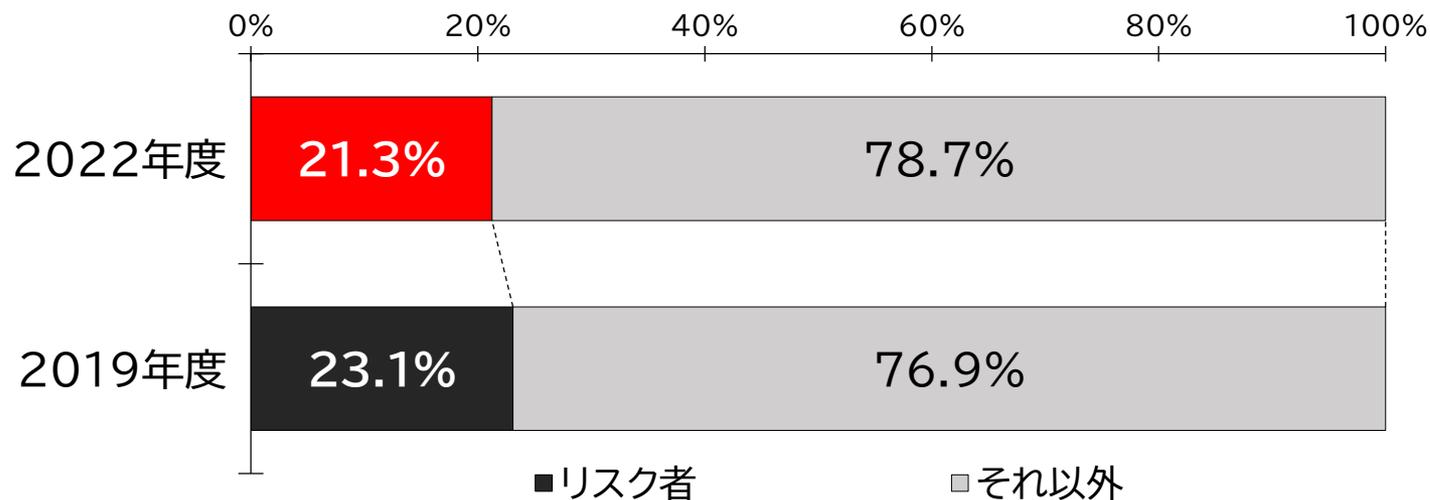


[圏域別]



運動機能リスク者割合

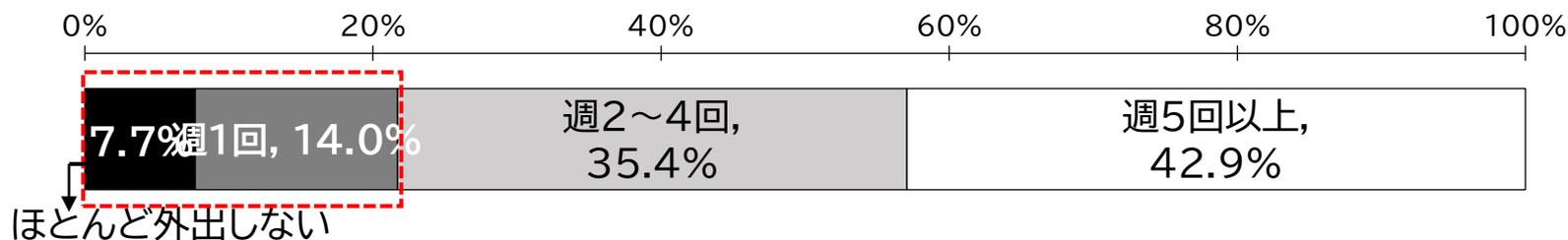
□ 運動機能リスク者割合は2019年度より2022年度で改善



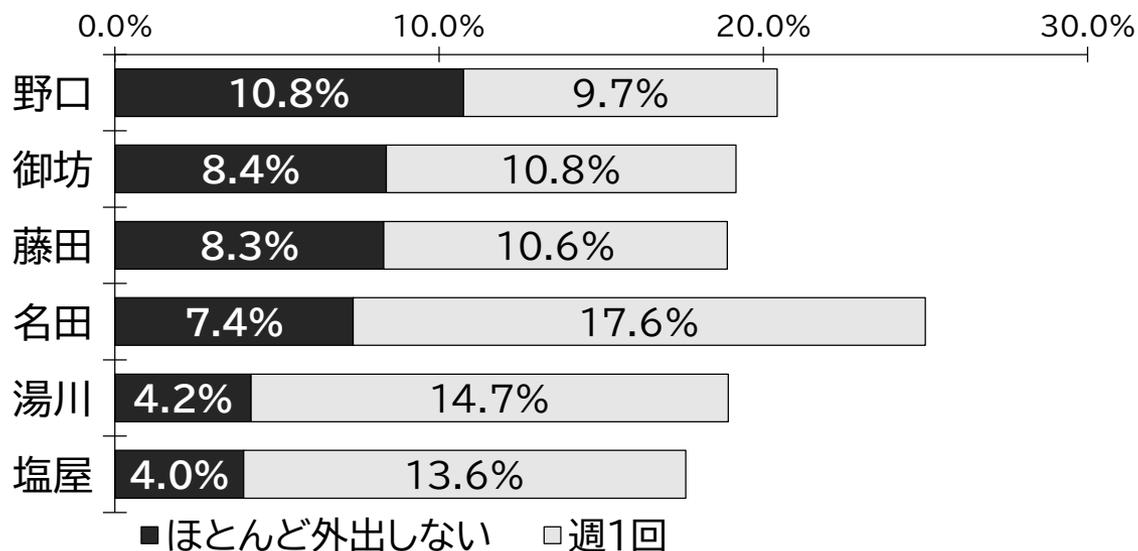
※ 運動機能3項目（階段を昇る、立ち上がる、歩く）と転倒経験、転倒不安の5問のうち、3つ以上できない等の回答者を運動機能リスク者としている

1 週間の外出状況

- 「ほとんど外出しない」「週1回」をあわせると2割に閉じこもり傾向
- 圏域別では、野口は「ほとんど外出しない」が1割以上と高め（ただし、2019年度と比べると藤田圏域以外は改善）



[圏域別]



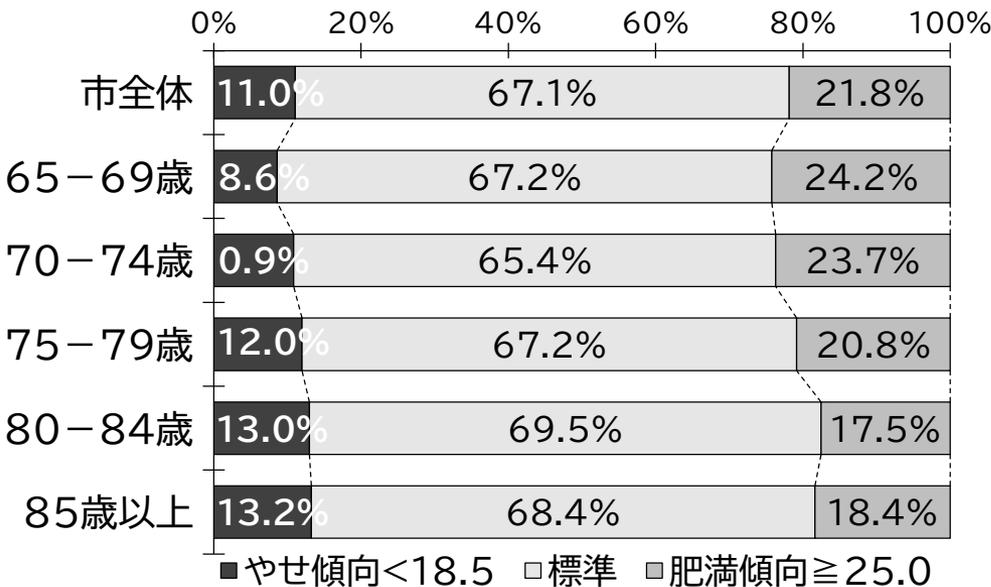
食えることについて：低栄養の傾向

□ BMI<18.5で見ると「やせ傾向」は1割程度

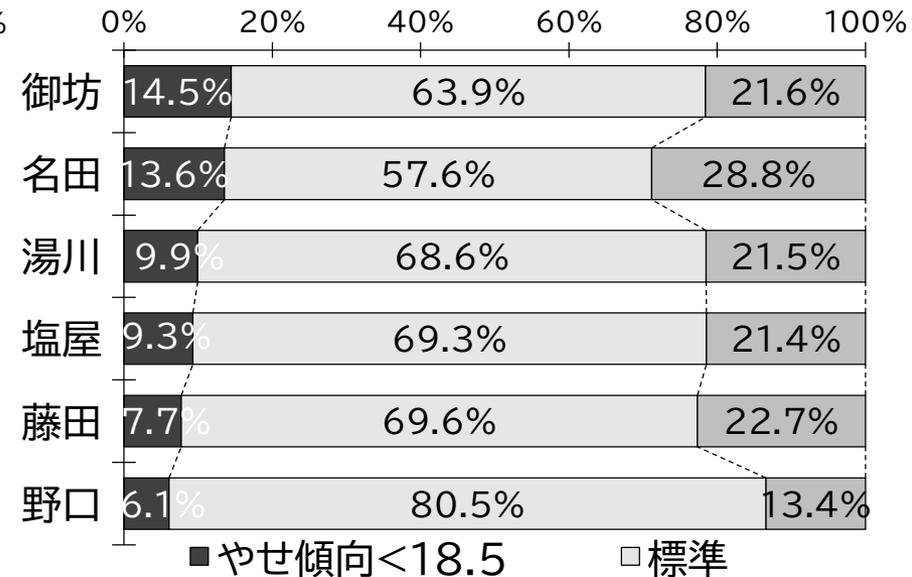
□ 圏域別では、御坊、名田が高め

☹️ 2019年度と比べると名田、塩屋で増加傾向

[年齢階級別]



[圏域別]



BMI

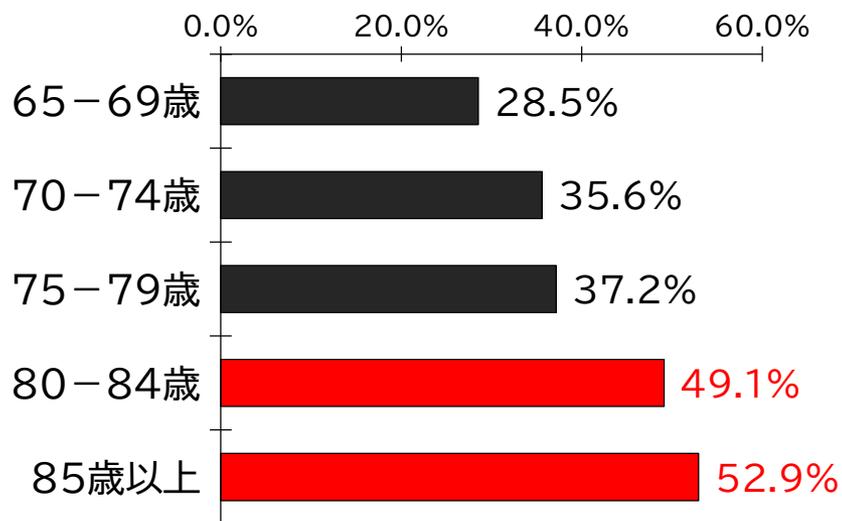
肥満度を表す体格指数で、栄養状態を把握。BMI=体重kg/身長m²
 BMI<18.5 やせ傾向 BMI≥25.0 肥満傾向

食べることについて：かむ力（咀嚼力）

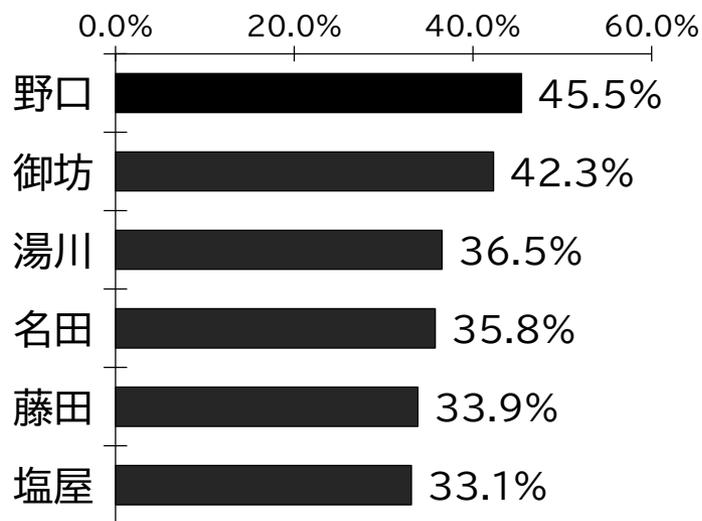
- 70歳代から食べにくくなる人が多くなり、85歳以上では5割を超える
- 野口、御坊が4割以上と高め
 - ☺ 2019年度と比べると名田、塩屋は改善傾向

半年前に比べて固いものが食べにくくなった割合

[年齢階級別]



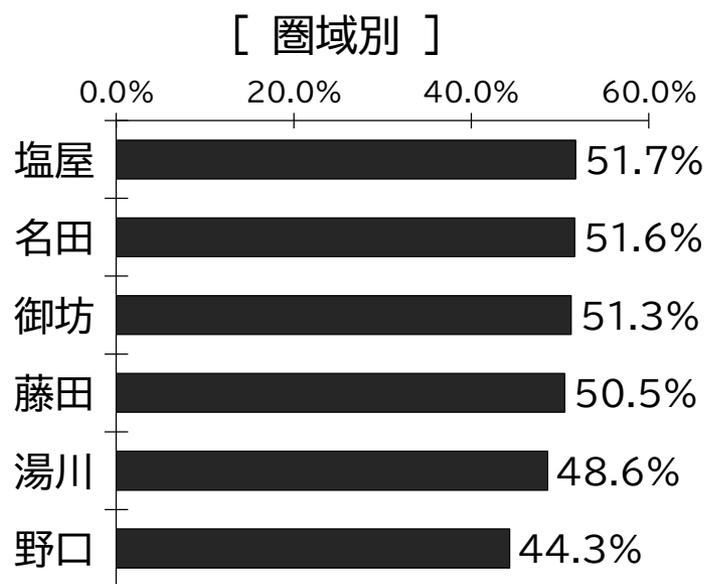
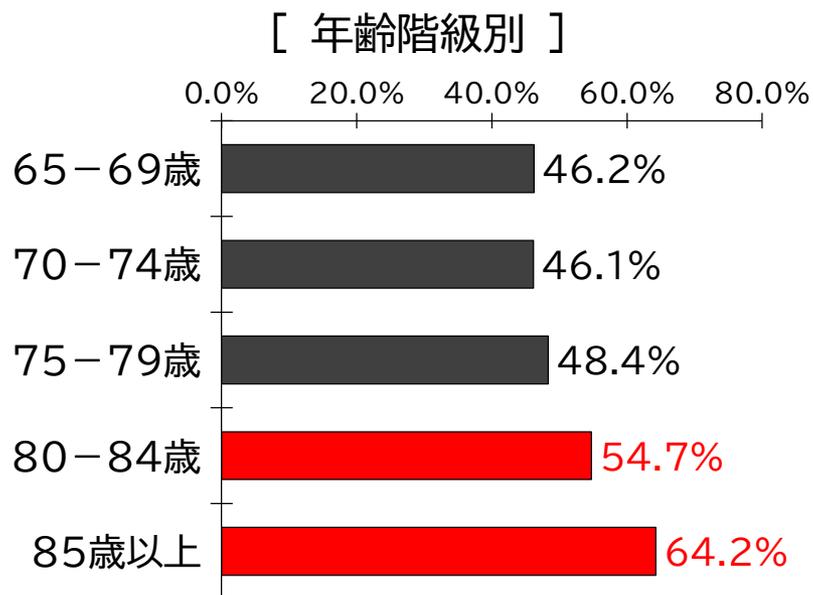
[圏域別]



物忘れについて（年齢階級別・圏域別）

- 「物忘れが多いと感じる」は50.1%と、約2人に1人
- 80代からは5割以上
- 圏域別では湯川、野口が5割以下
 - ☺ 2019年度と比べると野口が約1割改善、湯川のみ増加

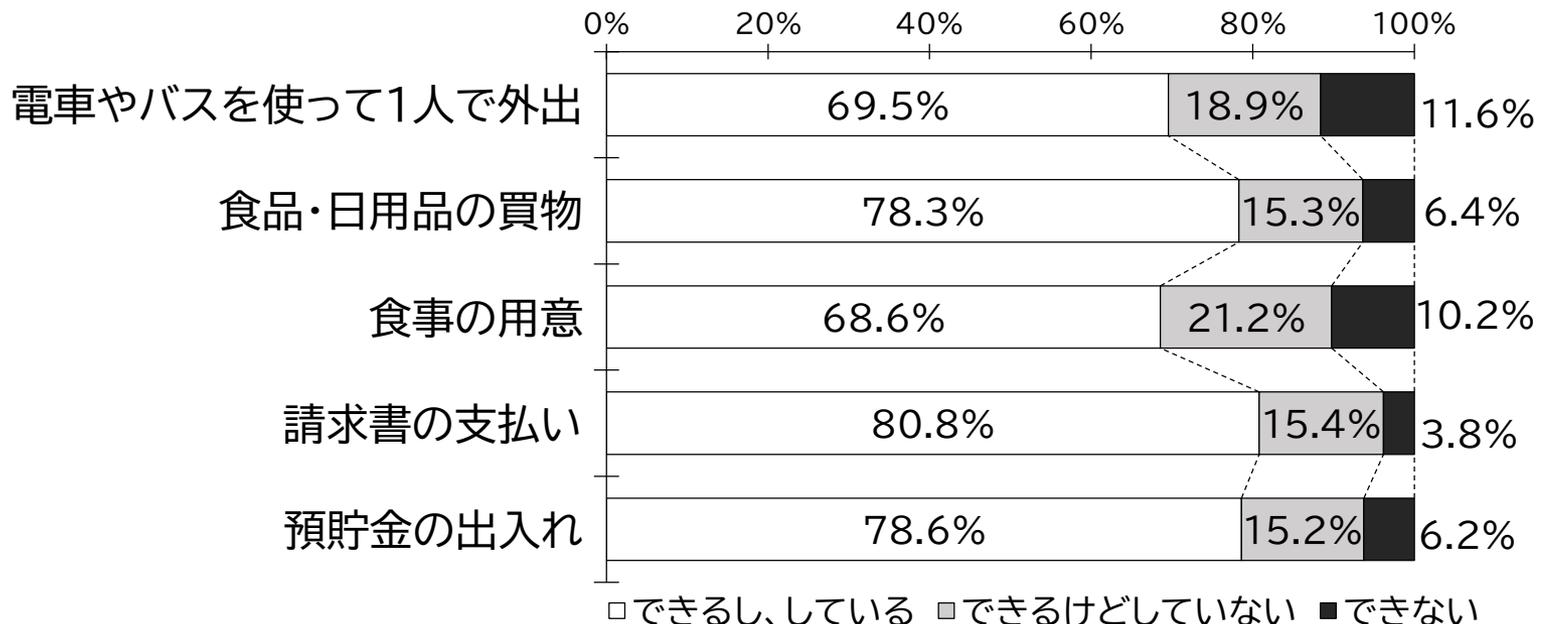
物忘れが多いと感じる割合



生活機能について：IADL（手段的日常生活動作）

- 「できない」割合が高いのは「バスや電車で1人で外出」「食事の用意」が1割強

😊 2019年度と比べると全体的に改善している

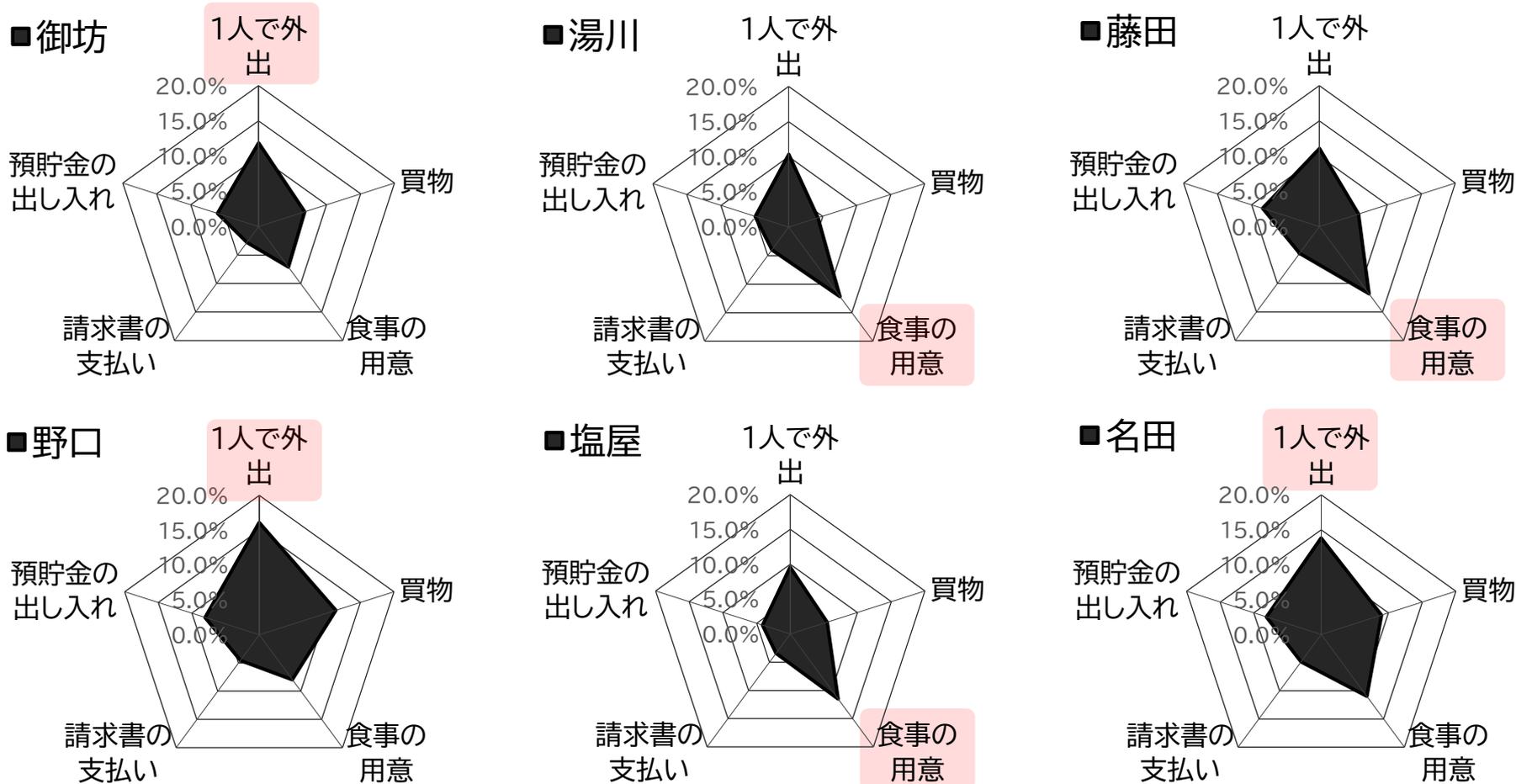


IADL
手段的日常生活動作

ADLは日常生活動作で、歩行、食事、着替えなど生活する上での基本的な動作。IADLは手段的日常生活動作で、ADLの基本動作をもとに食事の準備やバスや電車を利用するなど、社会生活に欠かせない機能で、この機能が低下すると日々の生活が困難になります。

生活機能について：IADL（圏域別できない状況）

□ 野口は「一人で外出」が“できない”の割合が高めなど圏域ごとの特徴が比較的大きい

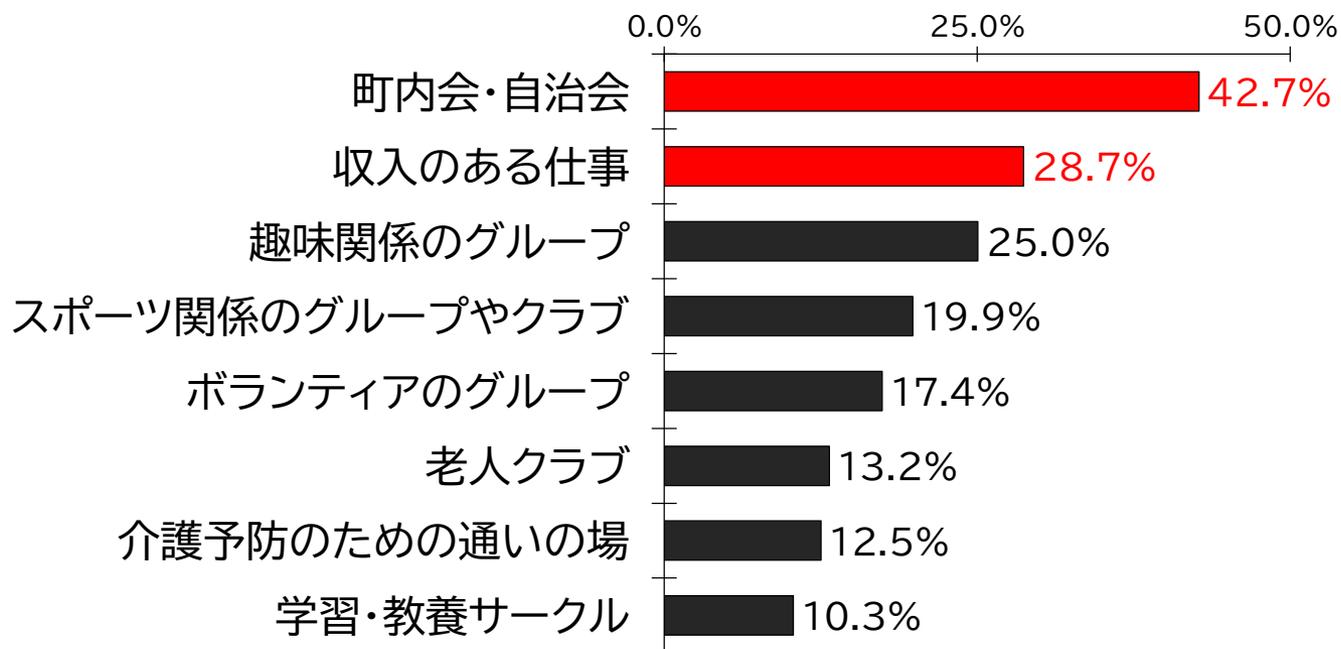


地域活動について：参加状況

□ 参加割合が高い活動は「町内会・自治会」、「収入のある仕事」、「趣味関係のグループ」であった。

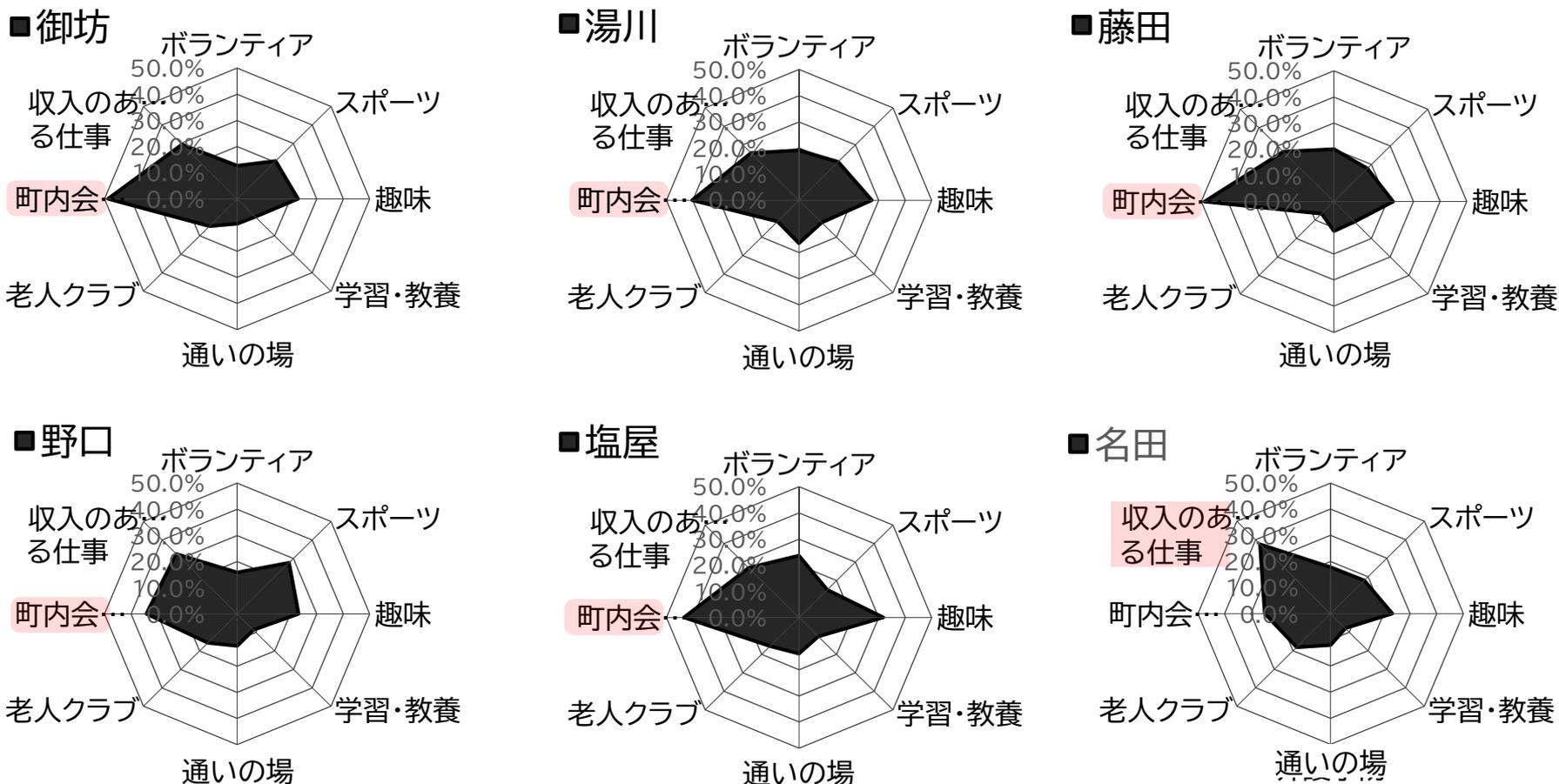
😊 2019年度との比較では、「町内会・自治会」と「ボランティアのグループ」が増加

[地域活動への参加状況]



地域活動について：圏域別参加状況

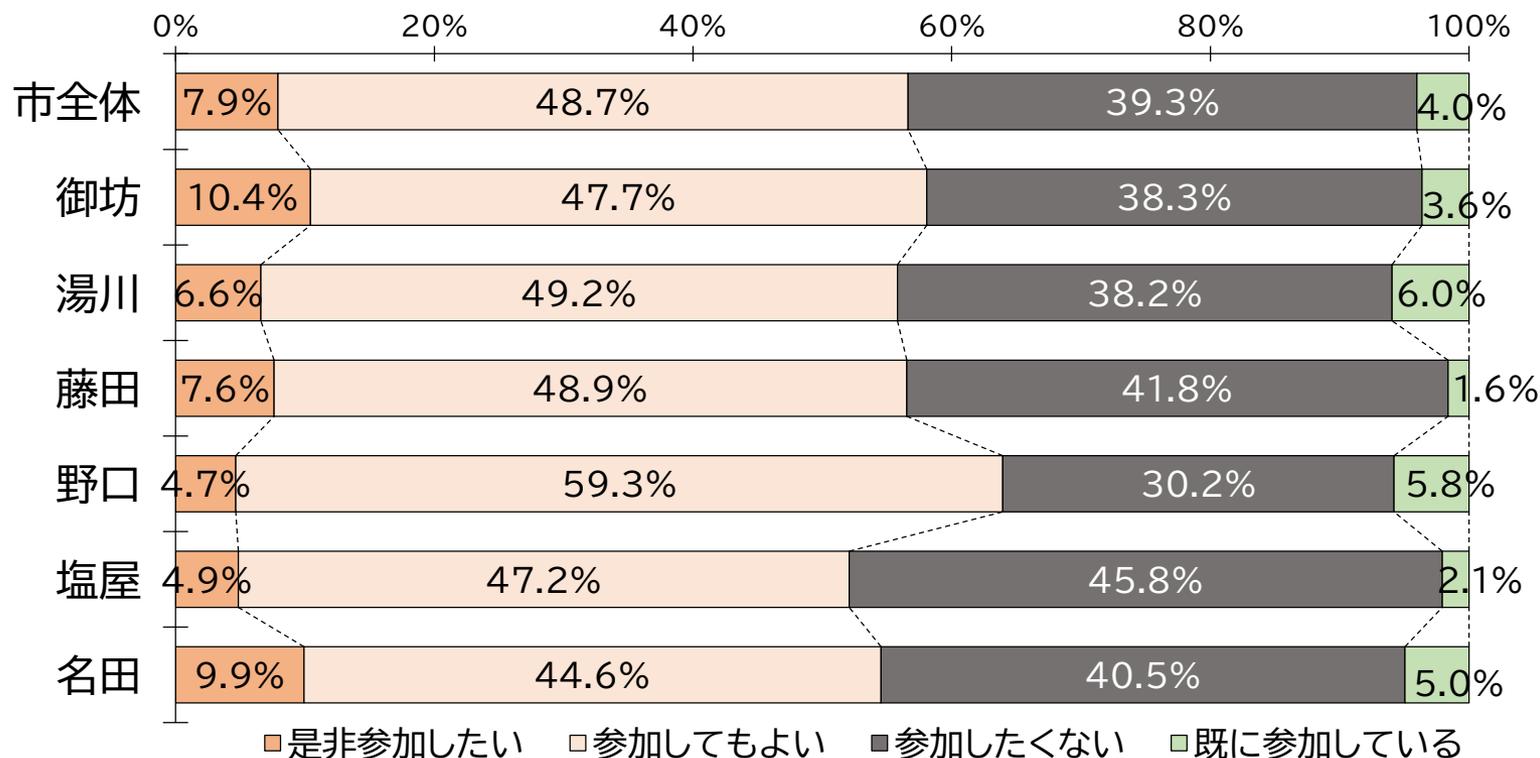
- 御坊、藤田では「自治会・町内会」の参加者が多い
- 名田では「収入のある仕事」の参加者が多い



地域活動について：地域づくりへの参加意欲

- 既に参加しているが、4%、参加意向が「是非参加したい」「参加してもよい」が全ての圏域で5割以上

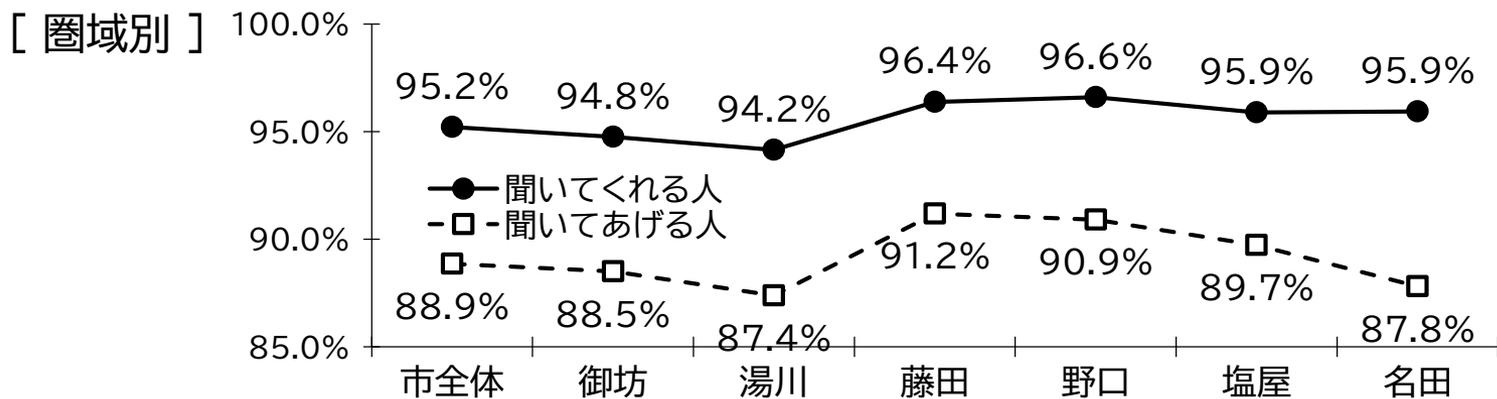
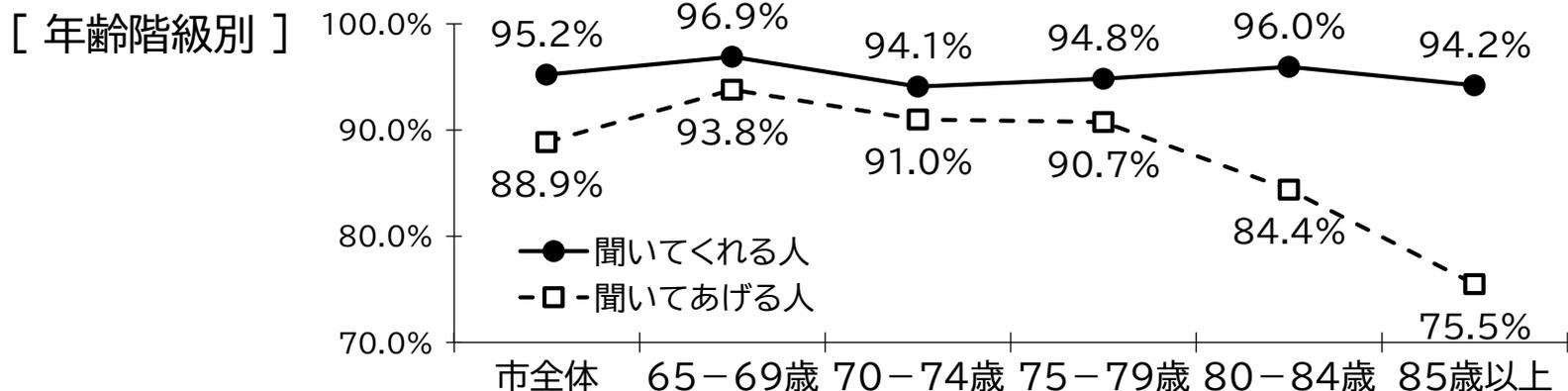
☹️ 2019年度と比べると、既に参加しているが少し減少、参加したくないが少し減少



たすけあいについて（情緒的サポート）

- 「聞いてくれる」はどの年齢階級でも9割を超え高い状況にあり、「聞いてあげる」は年齢階級が高くなるとともに低下していく傾向

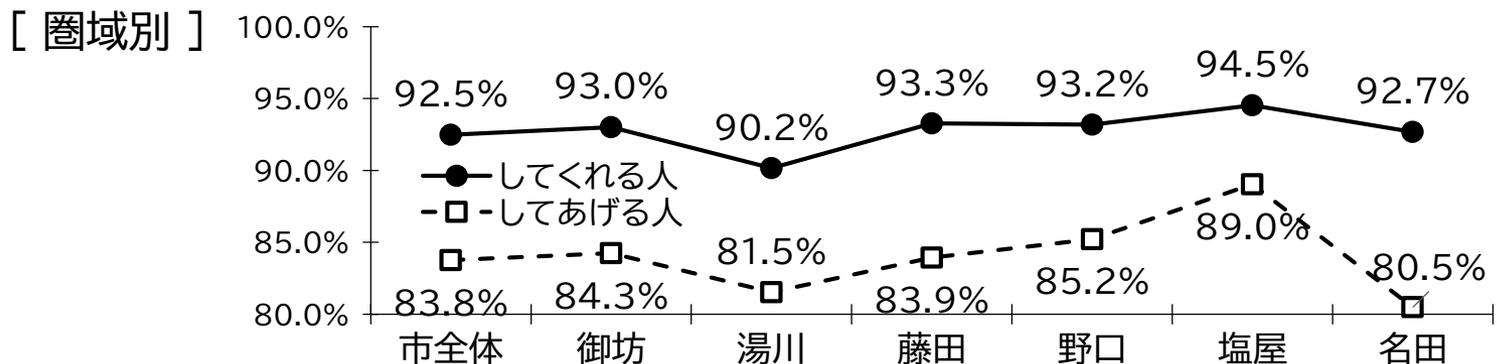
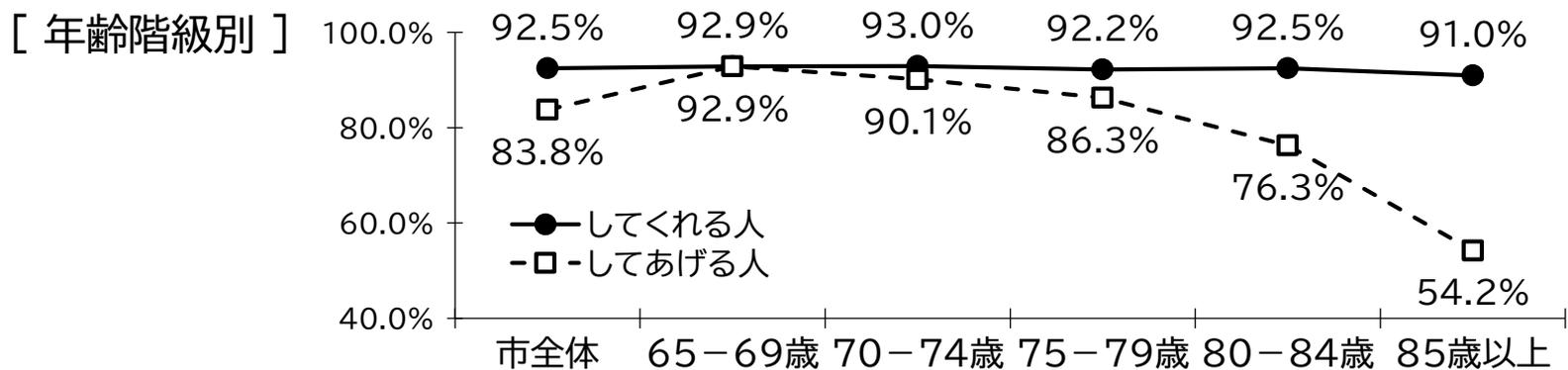
心配や愚痴を聞いてくれる人・聞いてあげる人



たすけあいについて（手段的サポート）

- 「看病や世話をしてくれる」は、どの年齢階級でも約9割と高く、「看病や世話をしてあげる」は80歳代から低下が大きい
- 塩屋は「看病や世話をしてあげる」が高く、名田は低い傾向

看病や世話をしてくれる人・してあげる人



相談する相手、友人や知人とのかかわり

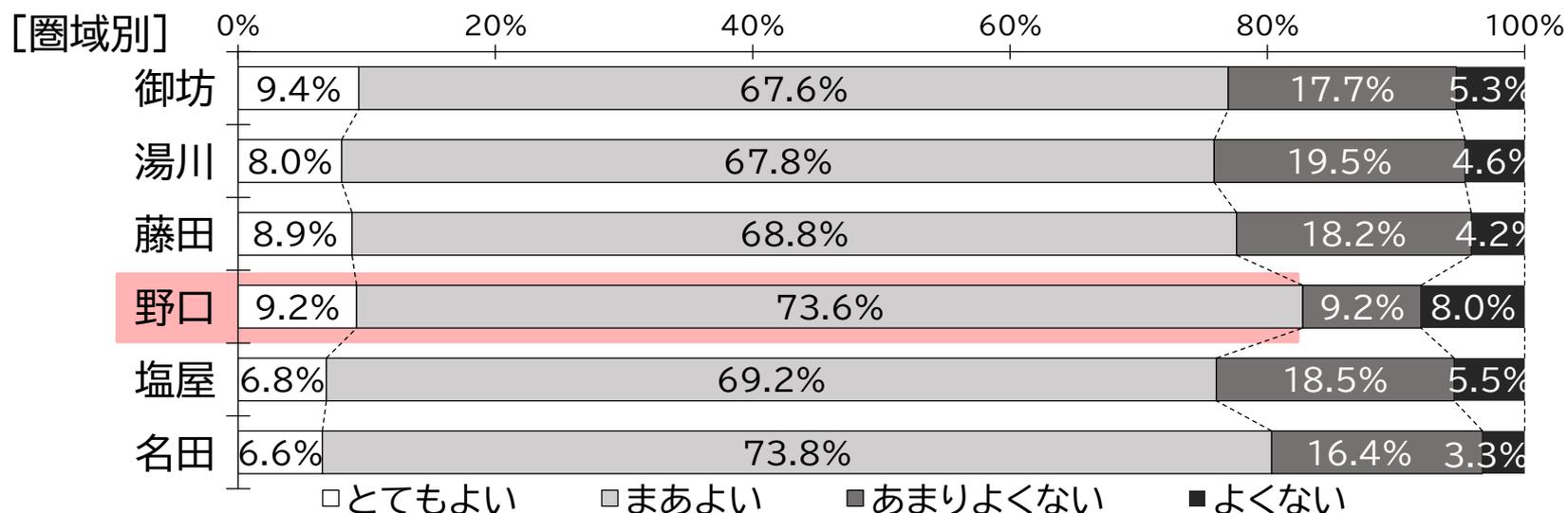
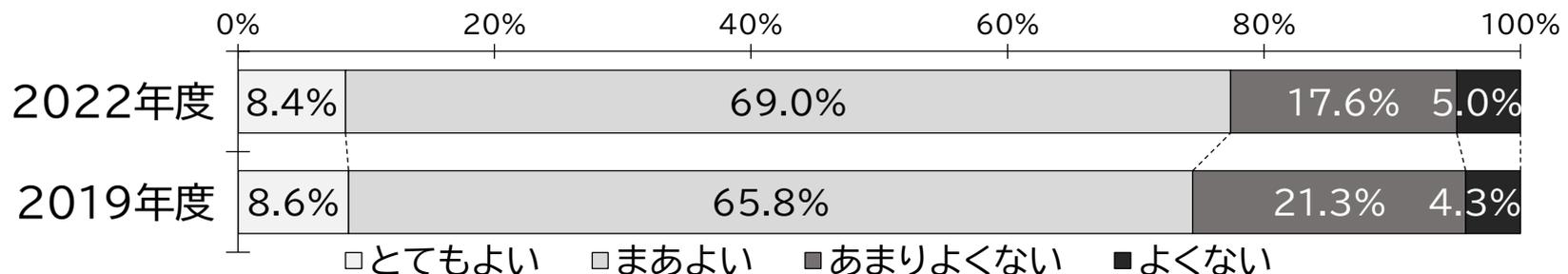
- 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手
 - 「そのような人はいない」の割合が最も高く40.9% (約2.5人に1人)
 - 次いで「医師・歯科医師・看護師 (27.9%)」、「地域包括支援センター・役所・役場 (13.1%)」

- 友人・知人と会う頻度
 - 「週に何度かある」の割合が最も高く30.8%となっている。次いで、「月に何度かある (26.1%)」、「年に何度かある (15.1%)」
 - 「ほとんどいない」が14.4% (約7人に1人)

- よく会う友人・知人との関係
 - 「近所・同じ地域の人」の割合が最も高く48.8% (約2人に1人)
 - 次いで、「趣味や関心が同じ友人 (28.0%)」、「仕事での同僚・元同僚 (24.8%)」

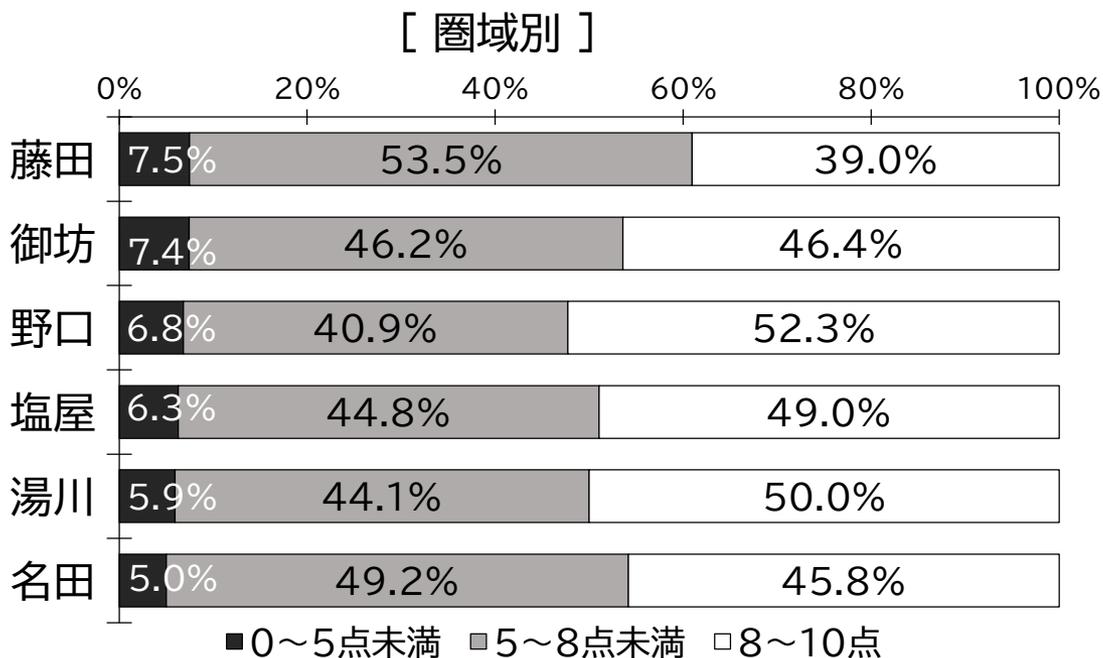
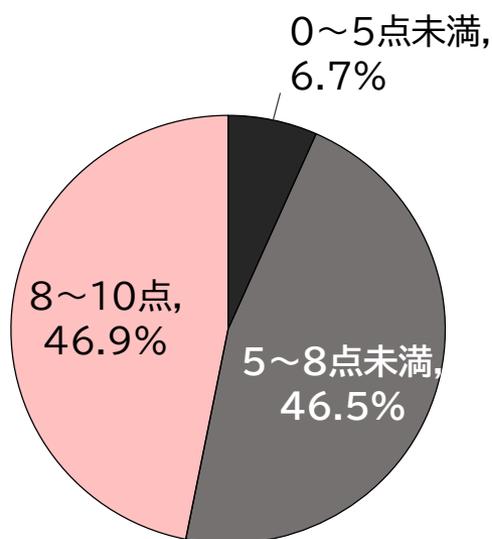
健康について：主観的健康観

- 2019年度と比べると、「あまりよくない」「よくない」を足した割合が減少
- 野口は「とてもよい」「まあよい」を足した割合が高い



健康について：主観的幸福感

- 「とても不幸」0点から「とても幸せ」10点で自己評価し、個人が人生の満足度や幸福度をどう評価しているのかを判断する精神面の指標
- 9割以上の方が5点以上 ☺ 2019年度と比較すると、少し改善
- 圏域別にみると、野口、湯川は8点以上が5割以上と高い



健康について：うつ傾向

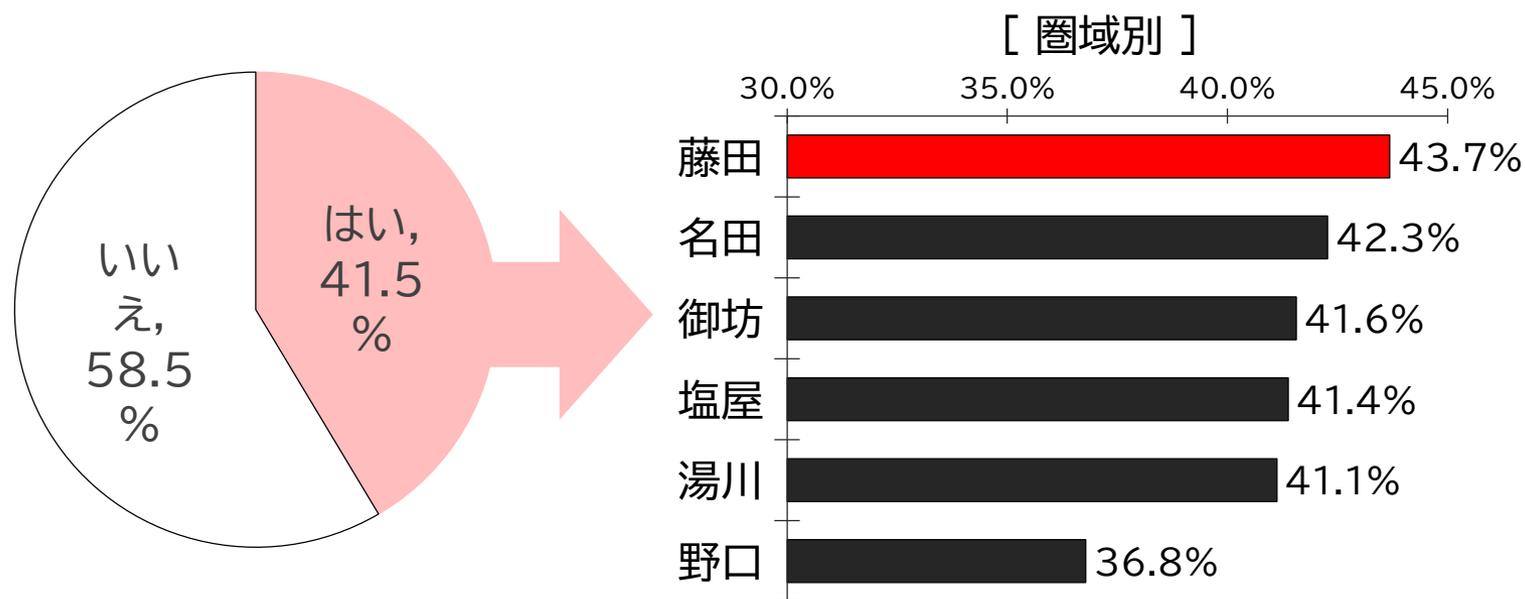
□ 「気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになった」は4割強

☹️ 2019年度と比べると、やや増加傾向

□ 圏域別では藤田が最も多く、野口が最も少ない

☹️ 2019年度と比べると、地域がほぼ逆転している

この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすること



認知症に関する相談窓口について

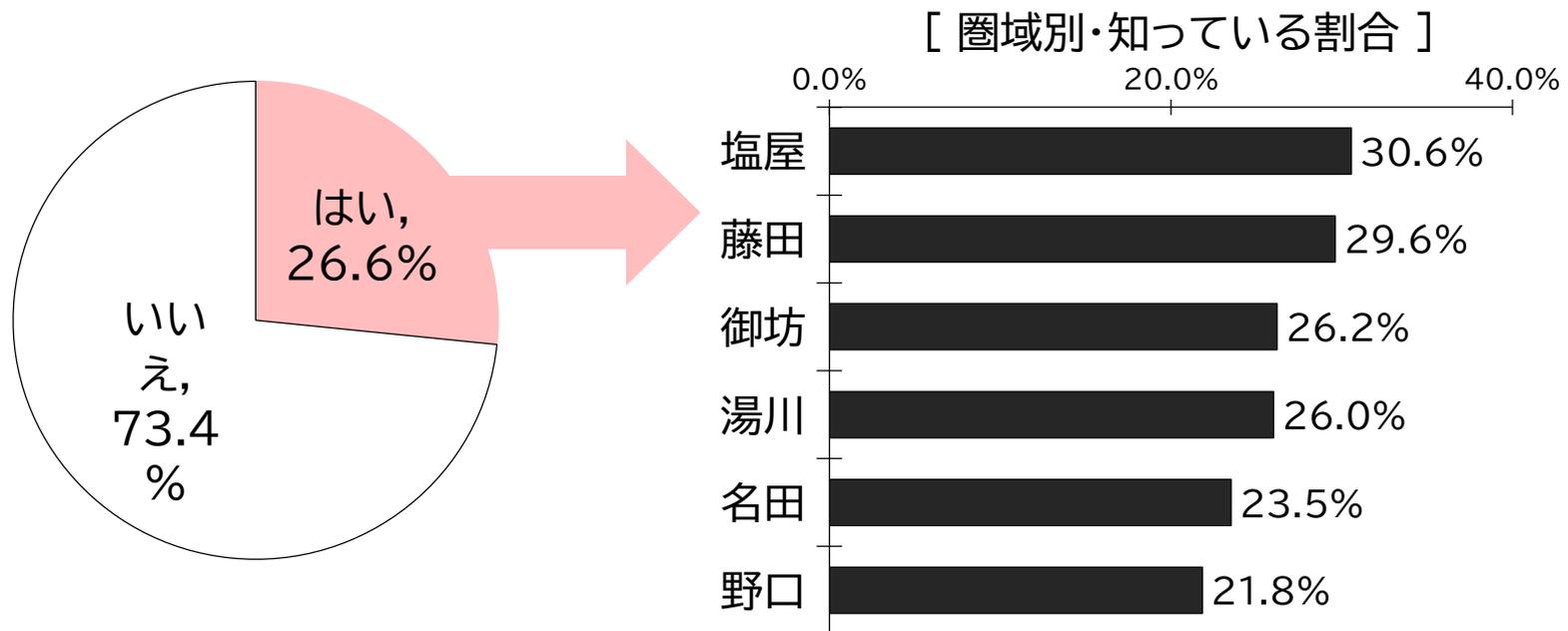
□ 認知症の相談窓口の認知度は3.8人に1人

☹️ 2019年度と比べると、約1割減っている

□ 塩屋が最も高く、野口が最も低かった

☹️ 全ての圏域で減少傾向だが、塩屋はどちらの年度でも最も高い

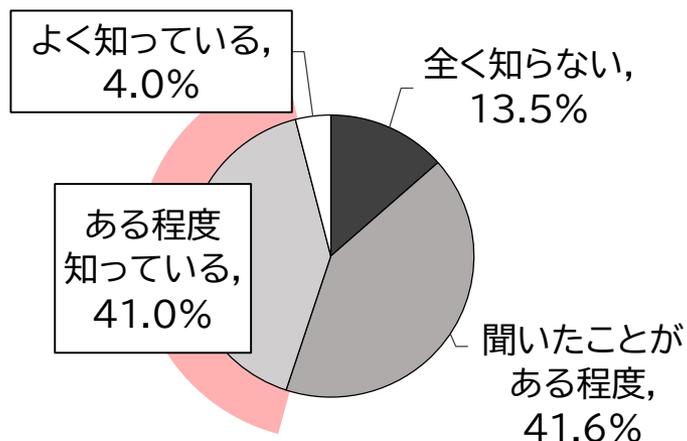
認知症に関する相談窓口を知っていますか



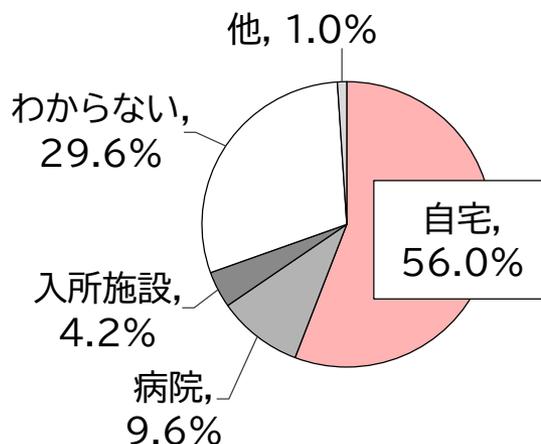
在宅医療・在宅介護について

- 「かかりつけ医」は8割以上が市内にいる。
- 「在宅医療」の認知度は45% 😞 2019年度と比べると約4%減
- 自分で判断が難しくなった時は9割以上が代わりに判断してくれる人がいる
- 人生の最期を迎えたい場所は56%が自宅 😊 2019年とほぼ同じ
- 終活について、約2人に1人が考えている

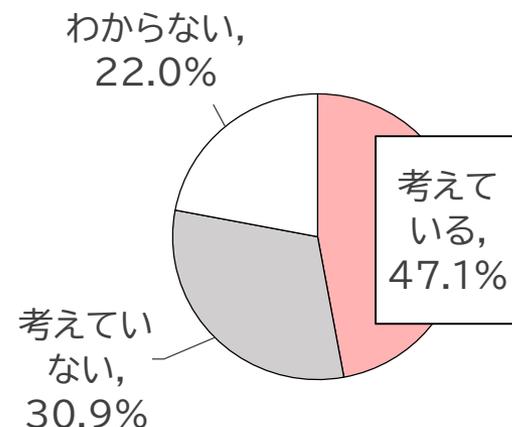
[在宅医療について]



[最期を迎えたい場所]



[終活について]



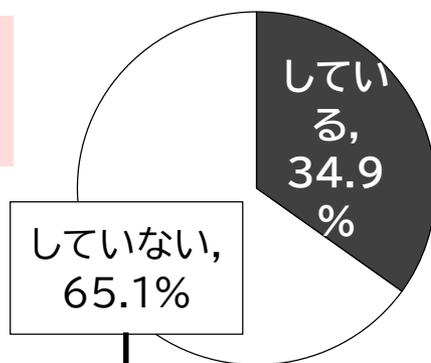
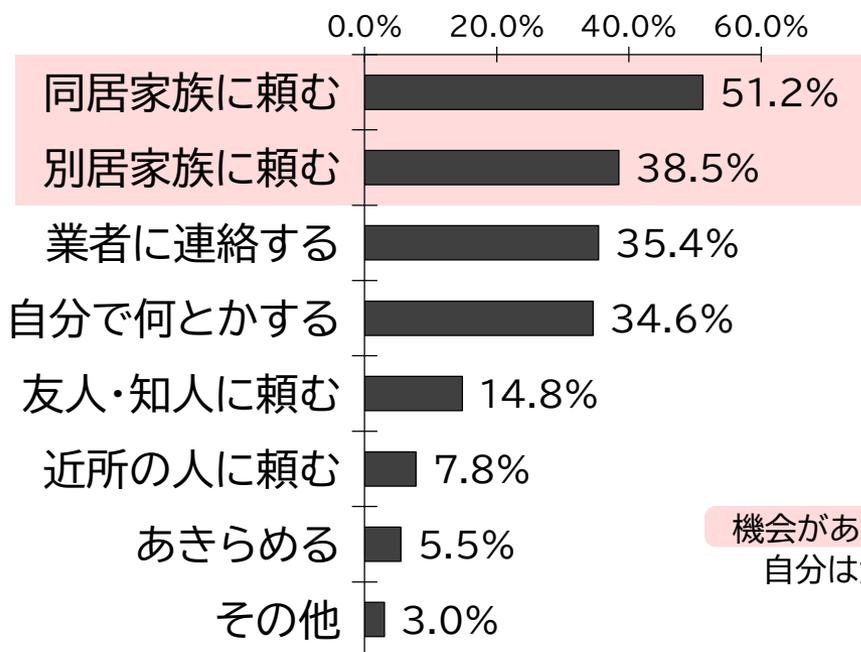
普段の生活の中での困りごとの解決方法

- 家族に頼むが多くを占め、友人・知人や近所の方は少ない
- 家の中に救急時の連絡先等の表示をしているのは約3人に1人表示していないが7割は機会があれば準備したいと思っている
- 携帯電話は86%が持っている

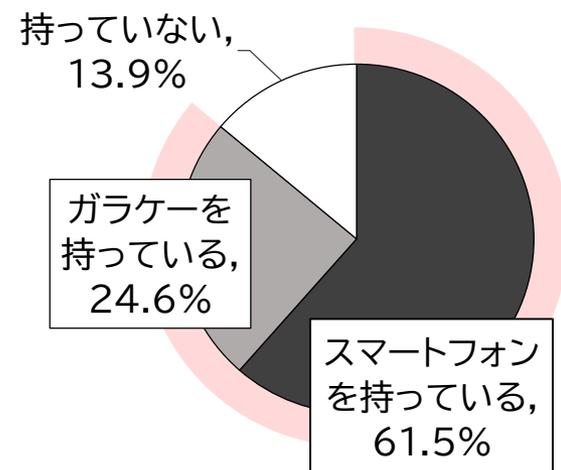
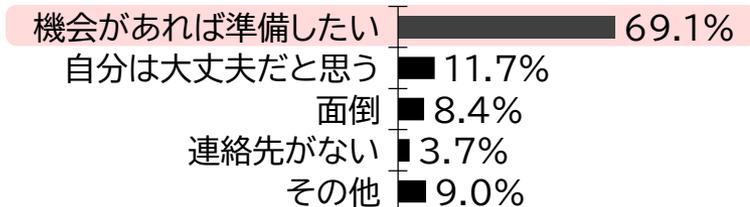
〔 不便なこと・困ったことの解決方法 〕

〔 救急時の連絡先等の表示 〕

〔 携帯電話の保有状況 〕



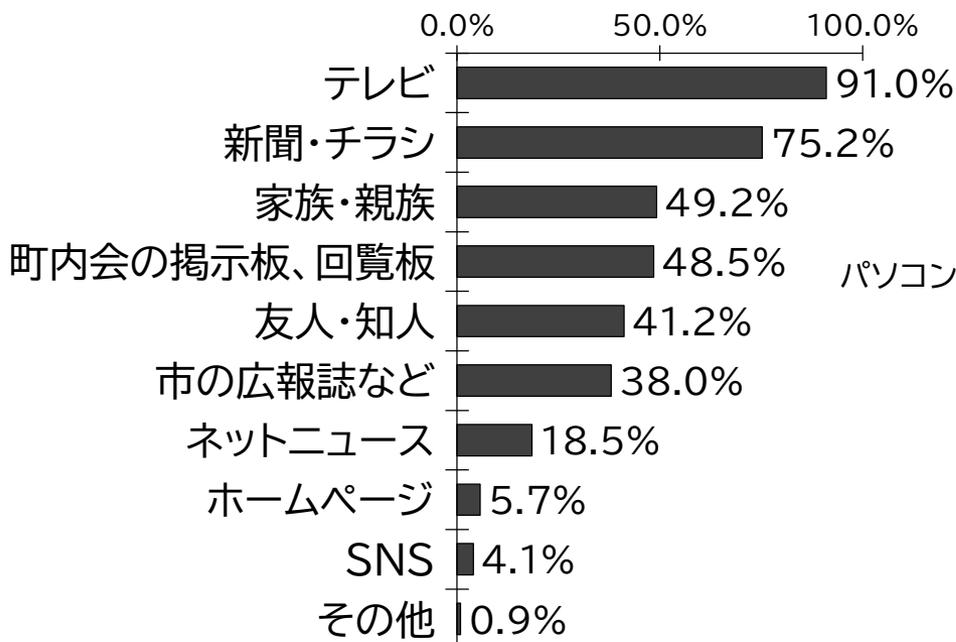
表示していない理由



暮らしに関する情報について

- 情報源はテレビが9割以上と高く、町内会の掲示板・回覧板も5割と高い
- 関心があるのは健康情報が5割以上、防災情報が4割と高い

[主な情報源]



[知りたい・関心がある情報]

